研究科共通（地域創生リテラシー）科目

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力	○	地域創生デザイン＆イノベーション（２単位） Design and Innovation for Regional Creation	文系や理系の区別なく、21 世紀の人間社会を考える基盤として生命科学の素養を深めることによって、根源的視野と俯瞰的視野の涵養を図る。持続可能な地域社会の創生にとって重要な課題や 21 世紀の人間社会をとりまく諸課題について、専門が異なる学生間の意見交換やグループワークを通して、分野横断的な思考力やコミュニケーション能力の伸張を図る。
	○	アカデミックコミュニケーションⅠ （１単位） Academic Communication Ⅰ	研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により，広い視点から専門知識への理解度を深めると共に，より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。具体的には，各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で，多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が，それぞれの専門分野における先端研究の動向や，分野を取り巻く課題，或いは，各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法等について，意見交換・議論を行う。
	○	アカデミックコミュニケーションⅡ （１単位） Academic Communication Ⅱ	研究室にとどまらない多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が自由闊達に意見交換・議論を行う「オープンゼミ」により，広い視点から専門知識への理解度を深めると共に，より高度な専門知識・技術及び学際的思考力と実践力を養成する。具体的には，各学位プログラムが主宰する「オープンゼミ」で，多様な分野の研究者・教員・実務家及び学生が，それぞれの専門分野における先端研究の動向や，分野を取り巻く課題，或いは，各個人の研究活動・調査活動に即した分析手法や実験手法等について，意見交換・議論を行う。
学際的思考力（文系科目群）		実践経営マネジメント概論（１単位） Introduction to Practical Management	経営トップなど組織の長にある複数の学外講師の講義を通して，経営に関する基礎知識，戦略的意志決定手法とその組織運営方法，マーケティング，国際化戦略などを学ぶ。また，組織の運営，経営における情報の役割（経営と情報，情報処理技術）などを，具体的な事例によって理解する。なお，アメリカでは工学と経営学の両方を学んだ大学院修了者をゴールデンキャリアと呼び，高い社会的，企業的評価を受けている。
		農業・農村の組織マネジメント（１単位） Management of Rural Organizations	雇用を抱える農業経営や、複数の人が集まっての農村起業における、組織マネジメントを学修する。特にそこでのリーダーシップ、及びリーダー人材の育成に焦点を当てる。 文献を基本として実際の調査経験も取り入れた講義の上で、議論を行って学習を進めていく。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）		観光地理学研究（１単位） Studies in Tourism Geography	日本および特定地域における農村観光の特徴を学習し、今後の農村観光による地域振興の可能性を議論する。
		ソーシャルビジネス論（１単位） Social Business	経済的利益と社会的利益の両方が期待できるソーシャルビジネスを農村地域資源の持続的管理のための手法として講義する。理論的整理に加えて、具体的なデータを用いて事例分析も行う。
	○	防災と国際協力Ⅰ（１単位） Disaster Management and International Cooperation Ⅰ	防災は災害が多発する日本だけでなく世界的に大きな課題です。本講義では防災と国際協力をめぐる論点や現状、及び課題を解説し、国内外の事例を用いて議論をすすめます。具体的には、災害発生前の備え、災害発生時後の緊急、復旧、復興期の取り組みや対策を含む「防災サイクル」の考え方を視点に、近年国内外で発生した大災害の事例を検証します。特にこれまでの開発途上国で防災国際協力事業に携わった経験を生かして、海外の被災地の現状や特性について解説し、国内外で実際に行った事例を用いて議論します。
	○	環境問題とガバナンスⅠ（１単位） Environmental Governance Ⅰ	グローバリゼーションが進行する今日、国家は地球規模の環境問題と局地的な環境問題に同時に対応することを求められている。問題は深刻化する一方、持続可能な発展に向けての様々な画期的取組みも、先進国・途上国双方において進行中である。授業では、経済活動に伴う環境問題の受苦・受益の関係性を構造的に捉え、社会的ジレンマを解消していくために、国際・国内社会がどのように向ってきたかを学び、持続可能な発展にむけたガバナンスの在り方について考察する。
	○	人間の安全保障と国連Ⅰ（１単位） Human Security and the United Nations Ⅰ	本講義では、人間の安全保障（human security）概念の歴史的展開について検討しつつ、同概念が主に国連の安全保障分野の意思決定や活動に与えている影響について、国際関係論、国際機構論の手法を用いながら検討する。具体的には、関連する先行研究に加えて、国連機関の報告書等を資料として用いつつ、国連安全保障体制における文民の保護の位置づけとその実行について、国連平和維持活動(PKO)や「保護する責任（responsibiity to protect)」との関係性に注目しつつ研究する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）	○	国際人権保障と平和構築Ⅰ（1単位） International Protection of Human Rights and Peacebuilding Ⅰ	本科目では、国際人権法、国際人道法および国際刑事法が形成され発展してきた経緯を概観し、国連、各地域機構および日本で、人の権利保障についての問題がどのように取り組まれてきたのか普遍的な視座から理解する。さらに、紛争下における大規模な人権侵害の具体的な事例を取り上げることで、理論上および実務上の様々な課題に対し、社会と私達がどう向き合うべきか分析、検討および発信する能力の一端を身につけることを目的とする。 本科目は、紛争後の平和構築において国際的な人権保障システムが如何に機能しているのか、また如何なる課題に直面しているのかを専門的に考察し、分析するためのスキルを習得するための基本的な枠組みを理解することが目的である。特に、国際人権法、国際人道法および国際刑事法の形成過程とこれらの法律に関わる国際的な裁判所、国際機関および市民社会などの多様なアクター達とのつながりに焦点を当てる。 グローバル・エリアスタディーズ・プログラムを選択する院生には、本科目とともに「国際人権保障と平和構築Ⅱ」を履修し、より専門的な知識を修得することが求められる。 ＊日英の両言語に対応しているので、希望がある場合は事前に相談してください。
	○	東アジアの国際政治と歴史Ⅰ（1単位） History of International Relations in East Asia I	東アジア国際政治の歴史を専門的に理解・分析するための導入科目であり、当該地域の国際秩序が歴史的にどのように形成されてきたのかを専門的に理解・分析するための基本的知識を修得することが目的である。 （1）世界戦争と戦後平和秩序という近現代国際政治史全体のダイナミズム、（2）第二次世界大戦後の地域秩序の特徴、（3）冷戦後の地域秩序の特徴について理解を深める。 いずれのトピックもグローバル化を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。
	○	ラテンアメリカの経済と社会Ⅰ（1単位） Economy and Society in Latin America Ⅰ	本地域における自由主義政策の世紀の後，2000年代には，複数の政府が，左派ポピュリズム政策がみられた。純粋な自由主義政策から，政府の規制・介入政策への振り子のような動きは，この地域の四半世紀の顕著な特徴として挙げられる。また国内・海外アクターの複数の対応や影響を研究する枠組みにも寄与している。本授業は，ラテン・アメリカ，特にラテン・アメリカの政治・経済・社会に関心のある大学院生を対象とする。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）	○	東アフリカの社会開発と文化Ⅰ（1単位） Social Development and Culture in East Africa I	授業においては，以下の 4 点について学ぶ。The following 4 points will be studied in this class: （1）「社会開発」に関する先行研究に基づき，複数の視点を学ぶ。Various perspectives of "social development" from previous research （2）東アフリカの地理・言語・民族・歴史・文化について学ぶ。Geography, language, ethnic groups, history, and culture of East Africa （3）東アフリカの事例としてタンザニアを取り上げ，社会開発の状況について時代を追って，独立以降，構造調整時代，貧困削減・経済自由化時代における状況を分析する。具体的には，それぞれの時代の政策を精査するとともに，経済，生計戦略，教育，保健などの分野における統計を分析する。Situation of social development in each period (independence, structural adjustment, poverty reduction/economic liberation) in Tanzania. Policies and statistical analysis of the economy, livelihoods, education, and health will be analyzed. （4）タンザニア国内における地域差とその背景を理解する。 Regional disparity and its background within Tanzania. いずれのトピックもグローバル化やグローバルな目的を理解する上で重要であり、これらの学習をつうじて、グローバルな観点から社会をデザインする能力を涵養する。All the topics are important to understand the thrust of globalization and global goals. Through learning these topics, capability to design the society from the global perspective will be strengthened.
	○	Political Change and Development in Southeast Asia Ⅰ（1 単位）	
		都市と移民・エスニシティⅠ（1 単位） Migration and Ethnicity in Urban Contexts I	

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）	○	感情コミュニケーションと社会的共生Ⅰ（１単位） Communication of Emotion in Multicultural Society Ⅰ	社会的共生とは、文化、性別、ハンディキャップの有無など異なる背景をもつ複数の集団が、たとえ利害が対立していても相互に排他的にふるまうことなく、一定のレベルで対等な関係を維持しつつ生活している状況である。 この授業では、社会的共生の基盤となる感情と対人コミュニケーションに関する研究分野において，とくに表情を媒体にした感情のコミュニケーションに焦点を当てる。まず、感情、コミュニケーション、共感をキーワードとし、これらのキーワードに関する基礎的知見と最新の研究に関する情報を提供するとともに、他者の感情や心理状態への共感のプロセスに関する近年の研究や理論を紹介する。これらの知見と理論に基づき、感情コミュニケーションと共感が、どのように社会的共生の実現に貢献しうるのか、もしくは阻害要因として作用するのかについて検討する。
	○	アメリカ文化研究Ⅰ（１単位） Studies in American Culture I	アメリカ合衆国の文化や歴史について多元的な観点から概観する。特に民族的また地域的な多元性について考察する。言語については米国英語の歴史的発展（イギリスからの移民英語の混交と変遷）と地域的拡散、地域については北東部、南部、中西部、西部、（南西部）の歴史的発展、宗教については、北東部における清教徒の伝統、英国国教会以外の各セクトの移住と拡散、カトリックへの排斥、ユダヤ教の北東部を中心とした広がり、イスラム教など多元的に扱うが、市民宗教や国民統合としてのキリスト教の役割も考察する。さらに、思想については、米国で生まれたプラグマティズムの発展に注目し、民族については、旧移民（北西ヨーロッパ系）と新移民（南東ヨーロッパ系）、先住民、アフリカ系米国人、アジア系（主に日系）、ユダヤ系、アラブ系、ヒスパニック系などの多元的歴史を考察する。
	○	フランス思想・文化研究Ⅰ（１単位） Studies on French Thought and Culture Ⅰ	現代社会が直面する多様な問題を的確にとらえ、ますます複雑化する社会の変化に柔軟に対応していくためには、文献や資料の論理的な読解力や要約力を養うこと、そして過去の事例から学びつつ、未来を切り開く知識や思考力を身につけることがきわめて重要である。本授業ではフランス思想史・文化に関する邦訳文献を講読し、歴史や哲学に関する理解を深めながら、多文化共生社会に関する文化的・社会的な諸問題を理解し解決していくための手掛かりを探る。講義形式の授業であるが、授業内では各自の事前準備に基づいた意見発表や作業が求められる。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）	○	西洋史研究Ⅰ （１単位） European Histories Ⅰ	本授業は西洋史・ヨーロッパ史・ドイツ史を専門的に学ぶための演習・授業である。とくに１６世紀から現代までを対象として、具体的には以下のようなテーマ・課題を扱い、文献理解と講義、討論を行い、総括する。（１）西洋史研究の方法、つまり文献探索、論文読解、先行研究理解などを教授すること、（２）宗教改革後のヨーロッパ宗教史を主要国別に整理し、国教会制という制度を理解させること、（３）フランス革命に始まる「世俗化」概念を説明すること、（４）１６世紀から１９世紀における民衆宗教、つまり制度化されたキリスト教とは異質の民衆レヴェルの信仰を説明、理解させること、（５）ドイツを例に、教区教会とは何か、その役割を理解させること、（６）世俗共同体とは別の教区共同体の意味と機能を理解させること、（７）教会が担った洗礼・結婚・葬儀の実態を理解させる。
		東アジア比較文学比較文化研究Ⅰ （１単位） Comparative Studies on East Asian Literature and Cultures Ⅰ	東アジアは植民地支配や戦争の時期を挟みながら、実に多様で豊かな人的かつ知的交流が行われていた地域である。例えば 19 世紀末から 20 世紀初頭においては、魯迅や李光洙、金東仁といった中国と朝鮮の若き知識人たちが日本に留学して日本文学や日本語に訳された西欧文学を手掛かりとして「近代文学」のあるべき姿を獲得するなど多くの知的な文学交流が行なわれている。反日政策下で政府同士の公式的な交流が絶たれた戦後においても、個人レベルでの知的な文化交流（映画など）が盛んに行なわれている。21 世紀に入ると、韓国や中国、台湾他中華圏では日本のアニメや漫画、ゲーム、ドラマなど日本の大衆文化がブームとなり、とりわけ村上春樹の小説が各国でベストセラーになるなど「日流」とよばれる現象が巻き起こっている。一方、日本でも「韓流」「華流」とよばれる韓国や中国、台湾の大衆文化への関心が高まっている。そうした知的生産性を持った空間として東アジアは捉えられるべきだと考えている。 そこで本授業では、1910 年代から 20 年代、30 年代にかけて東アジア各国で翻訳（翻案）発表された日本人文学者の作品をとりあげ、それらの作品が東アジアの知識人たちに受容された背景と意図、そして社会と文化に与えた影響について考察を行なう。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）	○	多文化教育研究Ⅰ（1単位） Multicultural Studies in Education Ⅰ	経済のグローバル化・ボーダレス化が進むにつれ，民族・文化等の違いがより強く意識されるようになってきている。従来，多文化論は，異なる文化背景を持つ人間同士が相互に「交流・理解できること」を前提に展開されてきた。ところが，紛争の絶えない世界の現実から，他者を理解したつもりのミスコミュニケーションが他者を理解する障害になるとも考えられる。そこで，本講義では，「理解可能な他者」を前提とすることよりも，越えられない「文化的な溝」について，歴史的，社会的および教育的見地から分析を試みると同時に，異なる民族や異なる文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と，その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。多文化教育の理論や方法論，日米欧における多文化教育の共通点・相違点が生まれた社会的・歴史的背景についても考察を加える。
	○	シティズンシップ教育Ⅰ（1単位） Citizenship Education Ⅰ	定住する外国人の増加や2020オリンピック･パラリンピックを契機とした多文化共生社会推進の機運の高まりを受け、多文化共生社会を形成する一員としての意欲や態度としてのシティズンシップ(市民性)を理解し、シティズンシップを育成するための教育、すなわちシティズンシップ教育が必要となってきている。本講義ではこのような社会の要請を前提に、シティズンシップ教育の在り方や進め方について理解を深めるために、主として日本での現状について文献や資料を読み議論を深める。また、日本のシティズンシップ教育の議論に影響を与えている英国におけるシティズンシップ教育の展開や、シティズンシップ教育の具体的実践領域として主権者教育、福祉教育、サービスラーニング、ボランティア学習をとりあげ、実践上の課題についても検討する。
		日本文化研究Ⅰ（1単位） Studies in Japanese Culture Ⅰ	日本文化は、伝統的には中国からの影響を受け、さらに、西洋からの影響を受けて近代化した。近代化を経て、現代に継承されている日本文化には多文化との融合性が内包されている。その一方で、日本文化には、同質性が高いという特徴があり、日本文化以外の文化、他文化を異文化として認識する傾向が強い。このような特質を持つ日本文化を基盤として、多文化共生を考えるためには、自己と他者の差異をとらえるのみにとどまることなく、他者との異質性と同質性の両面から考察することが重要である。多文化共生に関連する先行研究を検討し、自文化を土台として、他文化を相対化してとらえるための高度な思考訓練を行う。日本文化研究と他分野の研究の異質性と同質性を活かし、融合して、多文化環境における日本文化について探究する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）	○	英語学研究Ⅰ （１単位） English Linguistics Ⅰ	英語統語論と英語形態論への理解を深めながら、一般文法理論とのかかわりにも注意を払う。研究活動への基礎を固めるために、専門文献の読解力を養いつつ、いくつかの主要なアプローチについて,、思考法の要諦を学ぶ。その際、現代英語を具体例に取り上げながら考察を深めるが、本コースで特に注意を払う点として、話し言葉と書き言葉の対比、標準的な言葉と非標準的な言葉の対比、自発的な言葉と準備された言葉の対比、および文法と使用（用法）の対比を挙げることができる。このような点から得られる知見は、 構文、オンラインでの処理、言語類型論、第一言語習得理論などの様々な領域において、自発的な話し言葉の研究が不可欠であるということである。授業は主として講義形式であるが、第7,8回目の「文献講読と討論」を含め、受講者主体のレポートやディスカッションも取り入れていく。
	○	外国にルーツをもつ子ども・青年と教育Ⅰ （１単位） Studies on Immigrant Children Ⅰ	本授業では、多文化共生に関して、わが国で現代的な課題になっている「外国人児童生徒教育」の問題を取り上げる。そして、（１）国際的な移民問題、（２）日本における在日朝鮮人と彼らに対する教育、（３）ニューカマーと彼らに対する教育、（４）就学や高等学校・大学進学問題、（５）先進地域（愛知県豊田市・小牧市、神奈川県大和市など）の教育実践、特に母語・母文化教育を重視し、より自分らしく生きられることをめざした教育実践、等に関して、意義、歴史的背景、現状、論点、課題がわかるように講義を行う。また併せて各回の授業において、関連するテーマの代表的な先行研究を批評し、研究の余地も明らかにしながら当該分野の研究を行うための準備ができるようにする。毎回の授業では受講者による意見発表・意見交換を行い、自ら考えざるを得なくなる機会を設け、理解が深まるようにする。
		西洋近現代哲学研究Ⅰ（１単位） Studies on Modern and Contemporary Philosophy Ⅰ	「西洋」とは何か、「哲学」とは何か、という大前提を問うことから始め、次に、古代ギリシャから現代哲学にいたるまでを概観する。その際、ヘーゲルの『歴史哲学講義』(英訳と日本語訳を併用)を講読しながら、哲学史そのものの意味についても考える。その上でとくに「近代」と「現代」に着目し、「科学」と「自由」を主軸に、「西洋哲学」の本質およびその問題点を探っていく。併せて、古典テキスト（カント「啓蒙とは何か」)、および、現代哲学のテキスト（ヨナス『責任という原理』）を講読する（英訳と日本語訳を併用)。そのことを通じ、先人たちの哲学・思想と現代社会に生きる我々のそれとの比較および前者から後者への影響について考えながら、我々が直面する現代社会における応用倫理の諸問題（生命倫理・医療倫理・環境問題・情報倫理等々）を最終的に考察する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（文系科目群）		日本語史と日本語研究Ⅰ（1単位） Studies on Japanese linguistics and History of the Japanese Language I	この授業では日本語学および日本語史の各領域（音声・音韻、語彙、文法、社会言語学、歴史言語学等）のいずれかの領域に関する基礎的な専門文献をとりあげ（参加者の希望により年度ごとにとりあげる領域を選定する）、文献の精読と検討をおこなう。例えば、文法領域の文献をとりあげる場合、「音韻と文法との関係」、「語彙的なものと文法的なもの」「言語の形式」「語形変化システム」等、各回のテーマを設定し、それぞれのテーマにそって演習形式で授業をおこなう。授業活動をとおして、当該専門領域における学問的状況と課題とを理解するとともに、各自の母語の言語変化に関する現象について主体的に観察するとともに、自らが理解、考察した内容を、他の受講者とともに検討できるように整理し、表現する力を身につける。こうした活動をとおして、主体的に研究を進めていくための思考力、表現力の基礎を養うことを目標とする。
		日本語音声学Ⅰ（1単位） Japanese Phonetics I	講義が主体ではあるが、調音音声学（Articulatory Phonetics）の性質上、実践を伴う。留学生が日本語標準語の発音に上達する為に調音音声学を学ぶという主旨のものであり、その入り口の段階である。もちろん、日本語母語話者が自身の発音について深く知る為に参加することも可能である。
		技術日本語（1単位） Technical Japanese	当科目は留学生向けの授業です。日本人学生が受講を希望する場合は、別途、授業担当教員までご相談ください。 大学院の授業や研究室、学会で使用する日本語に特化し、表現や発表技術を学びます。学生がそれぞれ自分の専門についてポスター発表を行います。聞き手の立場に立って分かりやすく伝えるためにはどうすればいいのか実践をふまえ、日本語の表現力を磨きます。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（理系科目群）	○	文系のためのオプト・バイオサイエンス入門（１単位） Introductory Optical & Biological Sciences	光が，これまで科学の発展にどのようにかかわってきたか，これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する．光が，これまで産業の発展にどのようにかかわってきたか，これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する．光が，計算機技術や通信技術，情報記録技術など情報技術の発展にどのようにかかわってきたか，これからどのような発展に寄与していくかをいくつかの例をとおして議論する．最後に，光が我々の身の回りの生活の中で，どのように係わっているかを，これから，我々の生活をより良くするために関係してくるかを議論する． バイオサイエンス（生物学・生命科学）の発達により，社会生活が大きく変わってきている．しかし，その原理を理解していないと誤った報道に流され判断を誤る場合もある．基本原理を正しく理解することで，正しい判断をすることができる．バイオサイエンス分野の技術が身の回りの生活の中で，どのように係わっているか，またこれから我々の生活をより良くするためにどのように関係してくるかを議論する．
	○	社会現象の数理（１単位） Mathematical Theory for Social phenomena	都市を分析するうえでの高度な分析手法およびデザイン理論，技術者倫理について学ぶ．
		食品機能科学（１単位） Food Science	健全な食品を提供するためには，食品が持つ様々な特性を理解することが不可欠となる。この講義では，食品の美味しさを構成する成分とその化学変化について解説する。また，乳化などの工学的なアプローチも食品の美味しさの重要な要素であることを学ぶ。さらに，発がんリスク低下や免疫系調節などの生体機能調節に関わる成分について理解を深める。
		メカニカル・エンジニアリング（１単位） Mechanical Engineering	機械工学の基盤となる熱流体、マテリアル工学、マイクロ・ナノ工学、先端的なロボットやバイオメカニクス、航空宇宙分野、ヒューマン・ダイナミクス、オプトメカトロニクスなどの領域について概説する。
	○	情報電気電子システム工学概論（１単位） Introduction to Information, Electrical & Electronic Systems Engineering	文系の学生が情報電気電子技術の概要を学ぶための講義。基礎知識だけでなく、現在社会的に注目を集めているようなトピカルな当該分野の技術ついて、各分野を専門とする講師がオムニバス形式で解説する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
学際的思考力（理系科目群）		博物学史（１単位） History of Natural Science	生物学をはじめ、幅広い自然科学の分野が博物学から分化してきた。つまり、自然科学のそれぞれの分野は他の分野と呼応しながら、また、個々の時代の社会情勢や風潮に後押しされながら、発展してきたのである。本講義では、博物学の中の特に生物学について、その発展と広がりの歴史を見ていく。
	○	文系のためのデータサイエンス（１単位） Introduction of Data Sciences for students majoring in humanities or social sciences	今日の社会は、情報通信技術や計測技術の発展により、あらゆる分野において多種多様な大量のデータで溢れています。そしてそれらのデータから価値ある情報を抽出し、予測、意思決定、自動化、最適化、課題解決等に活用する一連のプロセスは、一般に「データサイエンス」と呼ばれ、近年その重要性が広く認識されるようになりました。本科目では、データサイエンスの基礎となる数理的思考（統計学）と Excel を用いたデータ分析手法を講義と実習を併用した形式で学習します。また、数学に苦手意識のある人や統計学に馴染みのない人でも理解できるように、基礎的内容を重点的に解説します。
		実践インターンシップ（２単位） Practical Internship	机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが，実際に企業，自治体の事業所あるいは NPO，教育機関，その他の団体など（以下「企業等」と略す）で実社会での実務あるいは実践活動（以下「実務等」と略す）を体験することも重要である。この授業では，実際に企業等において，経験豊富な実務者，特に建築設計の分野では一級建築士の指導を受け，建築士事務所における建築設計，工事監理の補助等の実務を体験するものである。 具体的には，事前指導において，大学院の専門領域や境界領域に関連したリスクマネジメント等を指導し，その後，実際に企業等において実務等の体験を行い，企業等への報告を兼ねたレポートを提出する。インターンシップ終了後には，事後指導として，提出されたレポートに基づいた発表会を実施し，学修効果の確認を行う。
実践力		実践フィールドワーク（２単位） Practical Fieldwork	学外で行う調査研究活動（個別またはグループ）をフィールドワークと位置づけて、その計画、実践、分析、結果（提言）の纏めに至る一連のスキームを体験学修する。 ・調査研究対象の選定から、現地調査地・機関等の連絡調整、現地でのインタビュー・アンケート調査、観察等を分析して得られた知見を広く社会に公表できる形式で纏める。
		創成工学プロジェクト演習（２単位） Practice of Project-Based Learning	原則，学生の専門の区別をせず，文理融合のメンバーにより，主に商品開発を目的としたプロジェクトチーム（4～6 名）を結成し，実践的な視点から開発プロセスの計画を立案する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
実践力		アントレプレナーシップ・プロジェクト演習（２単位） Seminar for Entrepreneurship project	大学におけるベンチャーのかかわり方を中心に、現在の代表的な起業事例を多く検討する。また、実務家からの講演等も拝聴することで、大学におけるベンチャー作りやエコシステム形成の問題を明らかにし、今後の日本の産業のエンジンとなるような取り組みを検討していく。
	○	International Political Economy（２単位）	The course introduces students to some major topics in IPE,such as globalization,free trade,inequality,and the decline of US power. It does so by critically examining major theoretical approaches and concepts.
	○	Sustainable Global Management（２単位）	宇都宮大学とアフリカの６大学（アディスアベバ大学、ガーナ大学、ジョモケニヤッタ農工大学、メル科学技術大学、ダルエスサラーム大学、ネルソンマンデラ・アフリカ科学技術大学院大学）の教員が、自分の専門分野の内容を SDGs と関係付けて講義を行う。授業は、2 回のオンタイムの Zoom によるものと、C-learning を用いた 13 回のオンデマンド講義で構成される。/ Teachers of Utsunomiya University and 6 African Universities (Addis Ababa University, University of Ghana, Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology, Meru University of Science and Technology, University of Dar es Salaam, Nelson Mandela African Institution of Science and Technology) give lectures on their speciality fields by relating to SDGs. Class is composed of 2-times on-time Zoom Lectures and 13 on-demand lectures by C-learning.
		国際インターンシップ（２単位） International Internship	机の前に座って教員の講義を受けたり自分で本を読んだりして勉強することは重要なことであるが, 実際に海外の企業や NPO や公的機関（以下「企業等」と略す）などで実社会での実務を体験することも重要である。この授業では，実際に海外の企業等に赴き，経験豊富な実務者等の指導のもとに実務の一端に触れるものである。なお，建築設計の分野では、一級建築士事務所相当の設計事務所等とし、指導者は、建築設計の実務経験が豊富な一級建築士相当の国ごとに定められた有資格者とする。
		臨地研究（２単位） On-site Studies	実地調査・研究を行うために必要な基礎的な知識と技能を習得する。具体的には、調査の目的、方法、実地調査、データ収集、分析などの一連のプロセスを、講義や実践をとおして体験する。

区分	英語対応	科目名（単位）	授業の概要
実践力		共生社会フィールドワーク（2 単位） Fieldwork on Social Inclusion	誰もが取り残されることのない共生社会のあり方が問われるようになってきている。そこで本科目では、多文化共生について理解を深めるために、社会的に排除されやすいこどもや人々との共生をめざす活動に関わる実践現場で実習を行うことを通して、共生社会のあり方について学ぶ。本年度は主に学校外の学びの場に支援者として関わることを通して、多様な学び方や共生社会のあり方について学ぶ。実際に 10 回程度の実践を行う。